



環境経営レポート

【2019年度版】

(対象期間：2019年4月～2020年3月)

発行日：2020年8月31日

承認	照査	作成
小林和夫	久保田寿男	田村豊

株式会社 テスコム

目次

1. 組織の概要	1
(1) 会社概要	1
(2) 事業活動の規模	2
2. 対象範囲（認証・登録範囲）	2
3. 環境経営方針	2
4. 環境経営目標	3
5. 環境活動計画	5
6. 環境経営目標の実績	6
7. 環境活動計画の取組結果	8
8. 環境経営目標と環境活動計画の取組みの評価	
次年度の取組み	10
9. 環境関連法規等の遵守状況の確認及び評価の結果	
並びに違反、訴訟等の有無	11
10. 代表者による全体評価と見直しの結果	13

1. 組織の概要

(1) 会社概要

商号 株式会社テスコム
TESCOM CORPORATION

創立 2005年5月6日

代表取締役 小林和夫

資本金 46,000,000円

所在地 本社
〒192-0073
東京都八王子市寺町29番地8
TEL 042-658-7066 (代)
FAX 042-658-7062
URL <http://www.tescom-net.com/>

岩手テクニカルセンター (以下「ITC」とする)
〒024-0032
岩手県北上市川岸1-7-2
北上NSビル3F
TEL/FAX 0197-72-6600

事業内容 データ通信システムの開発・製造
移動体通信のソフトウェア開発
無線通信機器の開発・製造

環境管理責任者 田村豊

連絡担当者 同上

メール tamura@tescom-net.com



(2) 事業活動の規模

活動規模	単位	本社	I T C	合計
従業員数	人	11	3	14
床面積	m ²	380	106	486
売上高	百万	241.4	-	241.4

2. 対象範囲（認証・登録範囲）

登録組織名：株式会社テスコム

◆対象事業所：本社、I T C（2015年2月4日拡大審査を受審）

◆対象とする活動：データ通信システム、移動体通信のソフトウェア開発
無線通信 機器の開発・製造・販売

3. 環境経営方針

マネジメントシステムを確立し、人と地球の環境保全に貢献する。

- ・環境負荷に配慮した製品やサービスを提供する。
- ・法規制とその他の要求事項を遵守する。
- ・グリーン購入を促進する。
- ・省資源、省エネルギー、リサイクル活動を推進する。
- ・廃棄物の適正管理をする。

この品質・環境経営方針を達成するため、品質及び環境経営目標を設定し、
全社員へ周知徹底を図り、適切性の持続のため定期的に見直しを行う。

改定日：2014年4月1日

代表取締役 小林和夫



4. 環境経営目標

2015年度から2012～2014年度の実績の平均値を基準値として、
下表の通りに目標値を設定しました。

項目	対象	基準値	目標（基準値比較）					
			2019年度	2020年度	2021年度	2022年度	2023年度	
			6%削減	7%削減	8%削減	9%削減	10%削減	
総排水量 (㎡)	本社	89	83.7	82.8	81.9	81	80.1	
	ITC	39	36.7	36.3	35.9	35.5	35.1	
	合計	128	120.4	119.1	117.8	116.5	115.2	
二酸化炭素 排出量 (kg-CO2)	電気 (kWh)	本社	35000	32900	32550	32200	31850	31500
		ITC	6200	5828	5766	5704	5642	5580
	ガス (㎡)	本社	36.5	34.3	33.9	33.6	33.2	32.9
		ITC	-	-	-	-	-	-
	ガソリン (ℓ)	本社	-	-	-	-	-	-
		ITC	400	376	372	368	364	360
	ガソリン燃費 (km/ℓ)	本社	-	-	-	-	-	-
		ITC	16	15	14.9	14.7	14.6	14.4
	灯油 (ℓ)	本社	-	-	-	-	-	-
		ITC	200	188	186	184	182	180
	排出量合計	本社	16669	15669	15502	15335	15169	15002
		ITC	4824	4535	4486	4438	4390	4342
合計		21493	20204	19988	19773	19559	19344	
一般廃棄物 排出量 (kg)	可燃ごみ	本社	47	44.2	43.7	43.2	42.8	42.3
		ITC	54	50.8	50.2	49.7	49.1	48.6
	不燃ごみ	本社	40	37.6	37.2	36.8	36.4	36
		ITC	-	-	-	-	-	-
	資源ごみ	本社	-	-	-	-	-	-
		ITC	-	-	-	-	-	-
	排出量合計	本社	87	81.8	80.9	80	79.2	78.3
ITC	54	50.8	50.2	49.7	49.1	48.6		
合計	141	132.6	131.1	129.7	128.3	126.9		
産業廃棄物 排出量 (kg)	廃プラスチックなど	本社	-	基本的には排出ゼロ (一定量で業者に依頼)				
ITC	-							
合計	-							
グリーン購入 の推進		全体		購入品目のエコマーク・グリーン購入対応				
省資源 省エネルギー		全体		<ul style="list-style-type: none"> ・ 開発製品の省電力化 ・ 生産協力工場の効率化 ・ 生産ラインでの間違い、不良率の削減 ・ 問題の対策案の妥当性確認 				



※二酸化炭素排出量の算出に以下の排出係数を使用しています。

(本社は、2019年6月から小売電気事業者を変更。)

・電気使用量 [kg-CO2/kWh]

本社：東京電力エナジーパートナー（2016年度）・・・ 0.474
ネクストエナジー・アンド・リソース（2019年度）

・・・ 0.000

I T C：東北電力（2016年度）・・・・・・・・・・・・・・ 0.548

・ガス [kg-CO2/m³]、ガソリン [kg-CO2/l]、灯油 [kg-CO2/l]については、
温室効果ガス総排出量算定方法ガイドラインver1.0の数値を使用し
ています。

都市ガス（参考）・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 2.16

ガソリン・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 2.32

灯油・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 2.49



5. 環境活動計画

2019年度の環境活動として下表の活動内容を設定しました。

(取組み期間：2019年4月～2020年3月)

今年度から、環境負荷などは継続項目として、各自の評価は行わずに、業務／生産率の向上について追加項目にて評価を行うことにしました。

<継続項目>

- ・2018年度まで行ってきた環境負荷への取組みは順調に推移しているため、継続項目としました。

項目	活動内容	目標達成率
総排水量	<ul style="list-style-type: none"> ・箸や食器などはまとめ洗い ・洗剤の使用料を減らして濯ぎ時間の削減 ・上記以外(トイレなど)の流量を抑える 	90%
二酸化炭素排出量	電気使用量 <ul style="list-style-type: none"> ・不要な照明や機器の電源OFF ・パソコンなどの省電力設定 ・空調の適切な温度設定 ・空調補助機器(サーキュレータなど)の使用 	90%
	ガス <ul style="list-style-type: none"> ・ゴム手袋を使用してガスの使用頻度を抑える 	
	ガソリン <ul style="list-style-type: none"> ・省エネ運転の推進 ・タイヤの空気圧チェックの実施 	
一般廃棄物排出量	可燃ごみ <ul style="list-style-type: none"> ・分別の徹底 ・印刷ミスの削減 ・両面印刷の実施 ・会議資料の電子化 ・紙類の再利用やリサイクル 	90%
	不燃ごみ <ul style="list-style-type: none"> ・分別の徹底 ・缶、ビン、ペットボトルなどは購入店で処理する 	
産業廃棄物排出量	<ul style="list-style-type: none"> ・蛍光灯などと混在しないように分別を行う ・産業廃棄物の種類などの周知活動 	95%
グリーン購入推進	<ul style="list-style-type: none"> ・購入品目の確認を行う ・対応可能な品目のグリーン購入 	95%
省資源省エネルギー	<ul style="list-style-type: none"> ・新規設計品の省電力設計 ・生産工場への指示の明確化 ・不良の対策内容を会議などで妥当性確認をする 	100%



<追加項目>

・2019年度から、業務及び生産などの効率を改善するために、活動内容に下記項目を追加しました。

〇〇ロスという大きな括りで、こういった内容ができていないか分類分けをして、社内できていない項目を共有していくことが主な目的です。

2019年度以降、継続して活動を行っていきます。

項目	項目内容	活動内容	目標達成率
情報ロス	情報共有されていますか？	<ul style="list-style-type: none"> ・製番に関連する内容は関係者全員に連絡する ・報告内容は端的にまとめる 	80%
作業ロス	作業者によって結果が異なっていませんか？	<ul style="list-style-type: none"> ・作業内容の明確化や手順書などを作成する ・プロジェクトフォルダ構造を統一して情報検索／取得を容易にする ・自動化やマクロを利用して作業効率を上げる ・不明点や問題があれば関係者や周囲に相談する 	各80%
停滞ロス	作業が止まっていませんか？		
能力ロス	作業者によって作業速度に大きな差がありませんか？		
品質ロス	作業のやり直しはありませんか？	<ul style="list-style-type: none"> ・確認事項の決定／内容確認を行う ・進捗状況を定期的に報告する 	80%

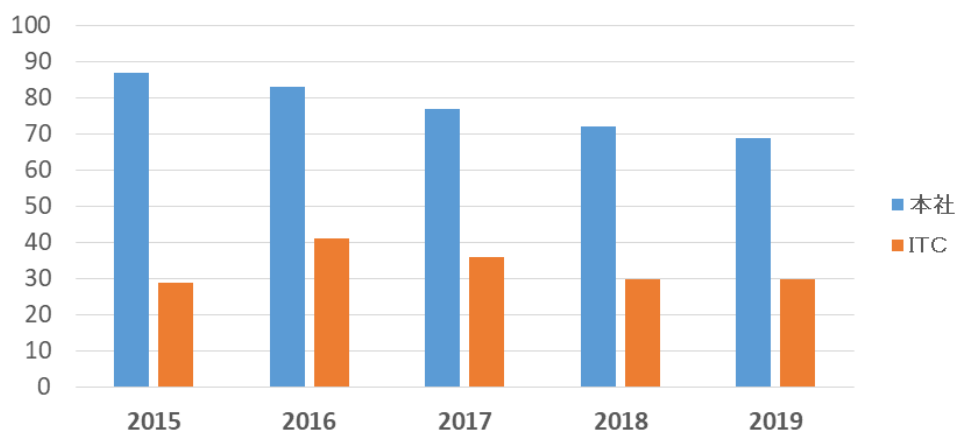
※目標達成率80%については、環境管理責任者の判断による。



6. 環境経営目標の実績

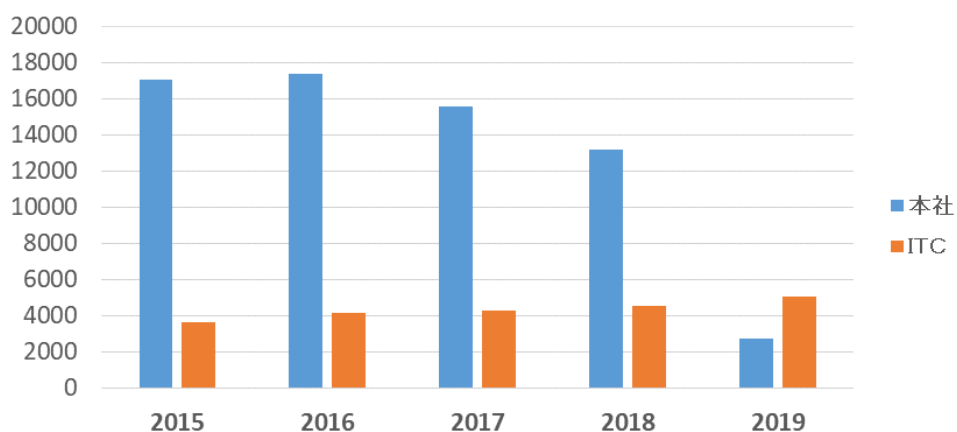
2019年度の環境目標の実績は以下のようになりました。

・総排水量 [m³]



年度		2015	2016	2017	2018	2019
本社	測定値	87	83	77	72	69
	削減率	2.2	6.7	13.5	19.1	22.5
ITC	測定値	29	41	36	30	30
	削減率	25.6	-5.1	7.7	23.1	23.1
合計	測定値	116	124	113	102	99
	削減率	9.4	3.1	11.7	20.3	22.7

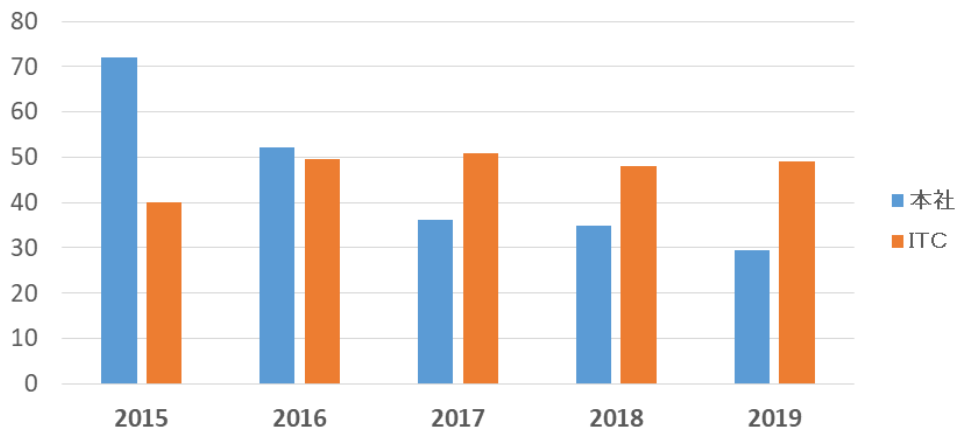
・二酸化炭素排出量 [kg-CO₂]



年度		2015	2016	2017	2018	2019
本社	測定値	17095.7	17399.1	15572.2	13180	2767.51
	削減率	-2.6	-4.4	6.6	20.9	83.4
ITC	測定値	3643	4142.9	4324.5	4536.9	5069.69
	削減率	24.5	14.1	10.3	5.9	-5.1
合計	測定値	20738.7	21542	19896.7	17716.9	7837.2
	削減率	3.5	-0.2	7.4	17.6	63.5



・一般廃棄物排出量 [kg]



年度		2015	2016	2017	2018	2019
本社	測定値	72.1	52.1	36.1	34.8	29.6
	削減率	17.1	40.1	58.5	60	66
ITC	測定値	40	49.5	51	48	49
	削減率	25.9	8.3	5.6	11.1	9.3
合計	測定値	112.1	101.6	87.1	82.8	78.6
	削減率	20.5	27.9	38.2	41.3	44.3

・産業廃棄物排出量 [kg]

年度		2015	2016	2017	2018	2019
本社	測定値	1040	0	0	0	1460
ITC	測定値	0	313	0	0	640
合計	測定値	1040	313	0	0	2100

・グリーン購入の推進

例年と同じく主に事務用品が対象となっており、グリーン購入対応できました。また、今まで使用していたPCが古くなったことと、OSのサポート期限の対応のため、PCを一新しました。購入PCについては、グリーン購入・省エネルギー対応品を購入しました。

・省電力省エネルギー

今年度の新規設計はありませんでした。生産工場ラインの効率化については、測定器の操作を多く必要としない検査であっても、データの記録などをPCのアプリケーションを使用することで記入違いや、紙の使用を抑えることに対応しました。



7. 環境活動計画の取組み結果

2019年度の環境活動の取組み結果は以下のようになりました。

(取組結果は、追加項目について期末評価結果の達成率です。)

項目	項目内容	活動内容	目標達成率	2019年度
情報ロス	情報共有されていますか？	<ul style="list-style-type: none"> ・製番に関連する内容は関係者全員に連絡する ・報告内容は端的にまとめる 	80%	59.0%
作業ロス	作業者によって結果が異なっていませんか？	<ul style="list-style-type: none"> ・作業内容の明確化や手順書などを作成する ・プロジェクトフォルダ構造を統一して情報検索／取得を容易にする ・自動化やマクロを利用して作業効率を上げる ・不明点や問題があれば関係者や周囲に相談する 	各80%	67.9%
停滞ロス	作業が止まっていますか？			86.1%
能力ロス	作業者によって作業速度に大きな差がありませんか？			54.2%
品質ロス	作業のやり直しはありませんか？	<ul style="list-style-type: none"> ・確認事項の決定／内容確認を行う ・進捗状況を定期的に報告する 	80%	69.6%

- ・情報ロス項目については、目標80%に対して59%と、全ての項目の中でも低い達成率になりました。「情報が十分に伝わっていなかった」や「作業がやる人によってやり方が異なる」(標準化されていない)といった内容が多くありました。
- ・作業ロス項目については、約68%という結果でした。未達成評価で多かった内容として、「共有フォルダの構造がプロジェクトごとにバラバラ」や「個人的なファイルが保存されている」などがありました。生産現場に関わる場所では、「自動化できるところが手作業のまま」という内容が多くありました。
- ・停滞ロス項目については、約86%と目標を達成しました。未達成の中には「作業が中断される」という内容がありました。
- ・能力ロス項目については、54%と全項目中一番低い評価になりました。特に生産に関わっている場所では、「特定の人でないと作業ができない」といった内容が特に多くありました。
- ・品質ロス項目については、約69%という結果になりました。「作業のやり直しが発生する」という内容が多くありました。



8. 環境経営目標と環境活動計画の取組みの評価・次年度の取組み

6と7の実績と結果から、各項目の評価は以下のようになりました。

総排水量

本社とI T Cともに、順調に削減できているので、これを継続していきたいと思えます。

二酸化炭素排出量

本社では、電気小売業者を排出係数が低い（ゼロ）業者に切り替えたため、排出量は大幅に削減となりました。

I T Cでは、基準値を超える結果になりましたが、生産工場への移動頻度が増加したためなので、次年度からは使用量の記録は行いますが、基準値比較を燃費に切り替えることにしました。

一般廃棄物排出量

本社では、順調に削減できているので、このまま継続して削減できるようにしていきます。

I T Cでは、排出量が一定になってきたので、削減量を落とさずに活動していきます。

産業廃棄物排出量

本社とI T C共に今年度は排出ありませんでした。蛍光灯などの水銀を含む廃棄物に関しては、他のものと混在しないように分別しています。今後も活動を継続していきます。

グリーン購入の推進

本社とI T Cともに、主に印刷用紙などの事務用品になりますが、環境品を購入しました。一部製品に使用しているテープ類などは、性能の関係と環境品から製作するのが難しいので、専用品で対応しています。今後も対応できる品目については検討していきます。

省資源・省エネルギー

製品設計では、省電力設計を行い、長期間使用可能な製品を設計していきます。生産ラインの対応として、自動化対応できそうなところや人為的ミスが多く発生しそうなところでは、自動化を検討していきます。また、発生した問題については、会議や打ち合わせを行い対策していきます。



追加項目

今年度から運用している追加項目については、結果が良くないロス項目について、改善できるように対策と情報共有を行っていきます。その他項目についても、情報共有を行ない、対策方法を社内で模索しながら改善できるようにしていきます。

9. 環境関連法規等の遵守状況の確認及び評価並びに違反、訴訟等の有無

2019年度環境関連法規への違反の有無は下表の通りです。

遵守確認日：2020年8月25日、確認者（本社：田村 ITC：高橋）

・ 全社共通項目

法規制等の名称又は略称	要求事項	遵守確認	
		本社	ITC
環境基本法	環境負荷の低減。再利用に努める。	○	○
循環型社会形成推進基本法	廃棄物の抑制。分別と再利用に努める。	○	○
騒音規制法	事業活動で生ずる騒音の抑制。	○	○
悪臭防止法	悪臭発生の防止・抑制。	○	○
化管法	化学物質の使用・管理を適正に行う。	○	○
消防法	消防計画の作成、消火・避難訓練の実施、消防設備の点検実施。	○	○
水銀汚染防止法	廃棄物の分別と水銀含有表示。	○	○
資源有効利用促進法	再利用可能な原材料の選択。	○	○
廃棄物処理法	廃棄量の抑制。適切な処理を行う。	○	○
容器包装リサイクル法	容器包装の再利用。分別の徹底。	○	○
家電リサイクル法	排出の抑制。再商品化に協力する。	○	○
自動車リサイクル法	排出の抑制。再資源化に努める。	-	○
省エネ法	エネルギー使用の合理化に努める。	○	○
温対法	環境負荷の低減。国などの施策に協力する。	○	○
フロン排出抑制法	室内機・室外機の簡易点検を実施する。	○	○
労働安全衛生法	労働災害・労働環境の改善を行い安全と健康を確保する。	○	○
グリーン購入法	グリーン購入対応。	○	○



・ 本社関連項目

法規制等の名称又は略称	要求事項	遵守確認	
		本社	ITC
都民の健康と安全を確保する環境に関する条例	環境負荷の低減。知事が行う施策に協力する。	○	-
	温室効果ガスの排出量把握。他事業者の実施措置に協力する。		
	公共交通機関の利用。		
八王子市下水道条例	浮遊物質・油脂類の流出防止。	○	-
八王子市廃棄物の処理及び再利用の推進に関する条例	排出の抑制。市の施策に協力する。	○	-
	低電力製品の開発。再商品化が容易な機器構造設計。		
	分別の徹底。		
	公害・危険がないように防止する。		

・ I T C 関連項目

法規制等の名称又は略称	要求事項	遵守確認	
		本社	ITC
北上市環境を守り育てる基本条例	公害防止、環境保全措置を行う。	-	○
	環境負荷の低減。市が実施する施策に協力する。		
岩手県環境の保全及び創造に関する基本条例	環境負荷の低減。低電力製品の開発。	-	○
岩手県自然環境保全条例	自然環境の保全。	-	○
岩手県ふるさとの森と川と海の保全及び創造に関する条例	自然環境保全に取り組む。県の施策に協力する。	-	○
いわての水を守り育てる条例	節水機などの利用。	-	○
岩手県民の健康で快適な生活を確保するための環境の保全に関する条例	環境負荷の低減。環境保全に努める。	-	○

環境関連法規制等の遵守の確認を行い、全ての項目で遵守されていることを確認しました。また、関係当局や周辺住民などから上記関連法規についての違反の指摘、訴訟、苦情などはありませんでした。



10. 代表者による全体評価と見直しの結果

2019年度の全体の活動について評価した結果は、次の通りです。

	項目	評価の内容
全体評価	環境への取組みは適切に実施されているか	環境負荷（水道、CO2排出など）について、適切に取組みが行われており、十分に削減できている
	環境経営システムが有効に機能しているか	システムは有効に機能している
見直し	環境経営方針	変更の必要なし
	環境経営目標	弊社のみにとどまらず、協力会社に対しても環境教育を推進したい
	環境経営マネジメントシステム	現状、変更の必要はないが、必要に応じて見直しを行いたい
	環境経営マネジメント体制	変更の必要なし

刻々と変化する弊社を取り巻く状況から「課題とチャンス」を整理し、的確に環境経営方針、環境経営目標を設定して「EA21」の活動を推進してまいります。

2020年8月28日

代表取締役 小林和夫

